



第 409 号
発行 2026年1月15日

佐賀市緑小路1-3
社会福祉法人めぐみ厚生センター
めぐみ園 0952 (34) 7722
どりいむ 0952 (34) 7727
E-mail s-megumi@basil.ocn.ne.jp
富士学園 0952 (63) 0107
ウイズ富士 0952 (51) 0063
ピースハイム 0952 (64) 2012
E-mail fuji-g@b2.bunbun.ne.jp

発行者 栗林 恵一
印刷所 (株)古川総合印刷

ホームページURL <http://www.megumikousei-center.org/>

皆さん明けましておめでとうござい
ます。昨年は日本において歴代初の女
性首相が誕生し、新たな歴史が刻まれ
ました。しかしながらその首相の発言
が隣国において否定的に捉えられ、国
際交流において支障を来しております。
発言者がそのような意図はなくても、
それを聞いた側の受け止め方によつて
状況が大きく変わってしまうというこ
とは皆様も経験したことがあるのでは
ないでしょうか。そんなつもりではな
かったのに自分の発言によつて相手に
傷つけてしまつたり、或いは逆に傷つ
いたりすることもあるのではないでしょ
うか。コミュニケーションの難しさを
覚えます。

本来コミュニケーションとは、『ラ
テン語の「communicare」(共有する、
分かち合う)』に由来し、単なる情報
伝達とは異なり、相手の状況や感情に
配慮し、相互理解を深めることを目的
とする』とされています。特に人間は
感情の塊ですので、発信する側も受信
する側もこのことに注意しなければな
りません。発信・受信が一方的になら
ないように考慮することが大切です。
そのためにはまず、相手のことをよく



「キリストの希望をもって」

社会福祉法人めぐみ厚生センター
理事長 栗林 恵一

理解することが重要です。相手を理解
するということは相手を受け入れると
いうことです。自分の「個」はもちろん
大切なことですが、それを全面的に
打ち出し過ぎると危険です。特に話し
合いにおいてお互いに百パーセント満
足して話し合いを終えるということは
極めてまれです。ある程度のところ
の妥協が必要です。そうすることによつ
てお互いの信頼関係が出来てきます。

このことは福祉の世界にも云えるこ
とで、相手を受け入れるにはその人を
愛することが必要です。「自分とは違
うからこの人は嫌だ、受け入れられな
い。」というのはいじめの原点です。
現代はストレス社会、コミュニケーション
不足の時代と云われています。特に
コンピューターの発達によりAI(人
工知能)が進化を遂げています。何か
わからないこと、困ったことがあつて
も、他人に聞くよりコンピューター画
面のボタンを押してAIに聞くとすぐ
に答えが出てきます。しかしながらそ
こには我慢する・尊敬する・付度する
等、その時の状況に応じた人間なら
はの感情は出てきません。
私の好きな聖句に『苦難は忍耐を、

忍耐は練達を、練達は希望を生む。
(ローマの信徒への手紙五章三〜四節)』
というのがあります。この聖句を文字
通りに読めば、「辛い事があつても、
耐え忍んでいけば希望が見えて来る」
と読めます。しかしこの聖句にはもつ
と深い意味があると思います。それは
「忍耐」という言葉です。聖書は主に
ギリシャ語で書かれており、ここで使
われている「忍耐」は、ギリシャ語で
「ヒュボモネー」という言葉です。こ
の言葉は、ただ黙って耐えるという意
味よりも、もつと強い意味を持つてい
ます。どんな苦難にあらうとも、心の
奥底に強い希望を持ち、雄々しく苦難
に立ち向かう。それが「ヒュボモネー」
という言葉に込められているそうです。
つまり、希望は黙って耐えていればわ
いてくるようなものではなく、苦難に
あつても自ら希望を強く持ち、苦難に
立ち向かう人にこそ、神様は苦難を耐
え忍ばせてくださり、ついには希望が
与えられるということだと思えます。

今の福祉の世界も、制度が次々に代
わり、先の見えにくい困難な状況にあ
ります。そのような中でめぐみ厚生セ
ンターは神様の愛によつて建てられて
います。常に神様のみ心を問ひながら、
神様がこの世に遣わしてくださいまし
た主イエス・キリストの愛の恵みに感
謝し、そこに希望を持ち続けていきたく
いと思えます。

どうか皆さま、今年もよろしくお願
いいたします。

めぐみ園

日帰り旅行

十月二十八日(火) 園では日帰り旅行が行われ、八名の方々が熊本県荒尾市のグリーンランドへ出掛けられました。また、十一月十八日(火)には、リニューアルしたイオン佐賀大和店へ五名の方が行きました。



天候にも恵まれ
楽しい思い出に
なったようです。



リニューアルされたイオンでお買い物を楽しみました。



日帰り旅行 イオン佐賀大和店

ハロウィン!

十月三十日(木) 園でもハロウィンイベントが開催され、様々な衣装をまとった職員がお菓子を配りながら皆さんの所へ! 短い時間でしたが、多くの笑顔が見られたイベントになりました!



今年も大盛り上がりのハロウィンでした



地域連携推進会議

十二月十七日(水) めぐみ園会議室で東与賀校区社会福祉協議会会長様、家族会会長様をお迎えし地域連携推進会議が開催されました。



これからも地域と共に

クリスマス礼拝・祝会

十二月二十五日(木) 園では、クリスマス礼拝・祝会が開かれました。祝会では、今年一年を振り返るスライドショーが上映され、ご家族と共に和やかな時間を過ごす事が出来ました。



今年も溝田先生より生け花の寄贈を受けました



家族会からは、クリスマスケーキが!



今年一年を動画で鑑賞



厳かなクリスマス礼拝

富士学園

クリスマス礼拝・祝会

十二月二十三日(火) 今年も、ふれあい館にて、ライブ配信によるクリスマス礼拝が開催されました。従来、開催されていた様に皆様が一堂に会して、聖書拝読や賛美歌など厳かな雰囲気の中で、クリスマスを過ごしました。



祝会では、食堂に和・洋・中のメニューや、麺類、寿司まで豪華なおードブルが並び、ソフトクリームなどのデザートまで、皆様迷われる程、沢山の品が並んでいました。



皆様、大変満足された様子で、とても楽しいクリスマスを過ごされました。

2025 クリスマス礼拝・祝会

ワイズキープリースタイム

クリスマス礼拝・祝会

十二月二十三日(火) にクリスマス礼拝・祝会に参加されました。今年度は富士学園がメイン会場となりリモート映像を中継しての開催で行いました。

ご家族の方も参加されたの礼拝であり、温かい雰囲気の皆様落ち着いて参加しておられました。

また、祝会では家族の方とバイキング形式にて好きな食べ物を選ばれ、嬉しそうに食され、利用者様も大変満足しておられました。

めぐみ園からも数名の方が参加され、皆様と一緒にクリスマスを祝いし楽しい時間を過ごされました。

冬の寒さも日毎に増しておりますので、体調を崩されない様に過ごして行きたいと思っております。



ふれあい

交歓の広場

(富士学園)

十月二十三日(木) 晴天に恵まれたこの日は、皆様が待ちにまつた『交歓の広場』が開催されました。利用者のご家族様もお見えになられ、青空の下、楽しいひと時となりました。



聖句

天よ、喜び歌え、地よ、喜び躍れ。
山々よ、歓声をあげよ。主は御自分の民を慰め、その貧しい人々を憐れんでくださった。

(イザヤ書四十九章十三節)

茶道教室

(めぐみ園)

めぐみ園では、五月より茶道教室が再開しています。コロナ感染防止期間休止していましたが、久々の再開となり、皆さんとても楽しまれています！



結構なお点前

法人研修所セミナー(めぐみ園)

十一月七日(金) 北九州市八幡西区にある社会福祉法人援助会聖ヨゼフの園理事長木戸邦夫氏を講師にお迎えしコンプレックス研修が開かれました。



木戸氏の福祉への熱い想いをお聞きすることが出来ました

皆様ありがとうございました

(十・十一・十二月分)

◎法人へ

- 佐賀めぐみ教会様より 寄付
- 多田満様より 寄付

◎富士学園へ

- 保険ステーション 永尾耕三様より 寄付
- 松本榮次様より 寄付
- 山代ガス様より 本を多数寄贈 寄付

◎めぐみ園へ

- 恵友会様より 寄付
- 井手正隆様より 寄付
- 永尾耕三様より 寄付
- 多良勝利様・山口勝正様・武藤治美様・大渡優子様より 寄付



何でもコーナー

冬用タイヤの歴史

皆さん冬用タイヤにはもう交換しましたか？最近の冬用タイヤは「スタッドレスタイヤ」と言われていますが、「スタッドレス」という言葉の由来をご存知でしょうか？かつての冬用タイヤには、「スタッド」と呼ばれる金属製の小さな突起(スパイク)が埋め込まれていましたが、一九九〇年代に入り、環境への配慮から、これらの使用が規制されるようになりました。そこで登場したのが「スタッドレス(スタッド無し)」タイヤです。金属製スパイクの代わりに、特殊なゴム素材と表面の細かな溝で、雪や氷に対するグリップ力を確保します。しかし、スタッドレスタイヤは万能ではありませんので、冬道の運転は慎重にお願いします。今年の冬は、適切な装備と心構えで、安全な運転を心がけていきましょう。



あしがき

明けましておめでとうございます今年も宜しくお願い致します。感染症や地域紛争、世界情勢の不透明等続いておりますが、どうか皆様には今年一年良い年になりますように。